

# 平成29年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	コレクション展 新収蔵作品を中心に											
	会期	平成29年6月15日(木)～平成29年9月26日(火)			開館日数	90 日間							
	会場(ギャラリー)	アーツ前橋 ギャラリー1			実施方式	01自主企画・単独方式							
	観覧料	一般	-		出品点数	17件27点							
		割引	-										
	担当者	学芸:辻瑞生 事務:佐藤恵司											
	目的・目標 (総括表)	新収蔵作品を周知すると共に、収蔵品を活用して認知を図り、資産価値の向上とシビックプライドの醸成に繋げる。											
	キーワード	平成28年度新規収蔵作品の紹介、作品からストーリーを考えやすい収蔵作品											
他団体との連携 (共催、協力等)													
参加作家	出品作家:池田カオル*、井田秋雄*、久保繁造、近藤嘉男、清水刀根、武澤久、田中恒、南城一夫、廣瀬智央*、深谷徹、福田貂太郎、水谷俊博* *印:平成28年度新収蔵作品												
関連イベント	2017/6/25、8/19子どもアート探検												
	2017/7/9 学芸員によるギャラリーツアー												
①インプット(投入)・・・用いた資源 ②プロセス(活動)・・・戦略や手段の計画 ③アウトプット(結果)・・・実施内容、実績 ④アウトカム(成果)・・・どういふ反応が得られたか ⑤インパクト・・・波及効果													
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(A3)	チラシ(A4)	出品目録	鑑賞ガイド	リーフレット	図録						
		1,000 部	0 部	2,000 部	0 部	0 部	0 部						
	収入/支出	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	入館者一人 当たりコスト	観覧券売上収入 (Aの一部)							
						一般	割引	合計					
		予算	990,000 円		189 円			0 円					
		決算	780,896 円		149 円			0 円					
		差額	-209,104 円		-40 円			0 円					
予算/決算		78.9%		78.9%									
会期一日あたり(決算)	8,677 円												
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	新収蔵作品を含むアーツ前橋の所蔵品を中心に、これまで展示する機会の少なかった作品を紹介する。										
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	近隣商店街や町内会の掲示板に掲出しやすい用にA3ポスターを製作										
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	規模の小さいコレクション展であるということで、新聞で紹介されることがなかった。上毛新聞の文化部記者に直接依頼したが、夏の「アートの秘密」展を大きく紹介するので文化面では紹介できないといわれた。他館でもコレクション展(収蔵作品展)が紙面で取り上げられる機会は少ないので、積極的な広報は行わず、「広報まえばし」などで伝えるようにする。 ポスターやチラシによって過剰な期待をさせてしまい、ギャラリー1のみの展示の場合										
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
												5,247	58
	有料観覧者率 #DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項							
	入場・参加者数	5,000 人	5,247 人	104.9 %									
	展覧会満足度	80 %	75.6 %	-4.4 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合								

## 平成29年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	コレクション展 新収蔵作品を中心に			
③ 結果	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容: ) 開館後まで積み残しとなった事項( )			
④ 成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	市民、美術愛好者		
		成果	アンケートからは「地元の作家の作品をみることでよかった」「前橋市民の美術館として前橋ゆかり作家の常設展示を継続してほしい」という意見や、学生時代に出品作家の田中恒、井田秋雄から教わったというコメントもあり、地域に密着した展示にはなった。しかし、作品数が少なかったというコメントもあり、美術愛好者ゆえに、たくさんの作品が見たいという声もあった。		
		ねらい1 (転記)	収蔵品の文化的価値の提示、再評価		
		成果	地元ゆかり作家の場合は、画家としての活動とは別のところで交流のある人々もいる。その人たちに、「画家としての作品を見るのは初めてで、群馬の風土の根ざした自由かつ緻密な作品に先生の内面をちょっと見せて頂いたように思いました」とのコメントのように、作家について理解を深めてもらうことができた。		
		ねらい2 (転記)	市民にとって身近な美術鑑賞の場としての役割を担う		
		成果	地下展示室が開くまでは、受付スタッフに積極的に、1階展示室が無料であることを伝えてもらうようにした。「今までなんとなく入りづらかったですが、いざ、一歩足を踏み入ると全く抵抗なく見ることが出来ました」「無料ということで気軽に立ち寄ることが出来ました」というコメントも寄せられ、通りがかりの人に気軽に作品鑑賞を促し、前橋市の収蔵作品とともに紹介することができた。		
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を( )内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載>  3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒作品を展示し、有効活動することで、寄贈者や作家遺族との信頼関係を構築することができた。  5. 地域資源の活用という点での効果⇒アーツ前橋の収集方針や収集活動を市民に広く伝えることができ、美術館としての役割を理解してもらう機会となった。  1. 参加作家のその後の活動を評価 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 4. 事業の実施に伴う波及効果 6. 意図せざる(思わぬ)効果			
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	課題・改善点	過去2カ年は新規収蔵作品のみを紹介していたが、昨年度は収蔵作品数が少なかったことや、過去1年以内に展示していた作品もあったために、新規収蔵作品とあわせてそれまでの収蔵作品を展示した。そのため、展覧会のテーマを設定できずに、単なる収蔵品展の紹介にとどまってしまった。展示室の開館日数を少しでも多くしたほうがいいだろうという考えから、地下を閉めたまま、1階部分のみ開館しているが、吹き抜けの下が暗いなどの意見も寄せられ、見せ方の工夫などが必要である。			
	引継ぎ事項 (特記事項)	前回の評議会でも意見があったが「コレクション展」という名前を使わないで、収蔵作品や展覧会の魅力を伝えるような工夫が必要である。			
	コメント・意見	館長 副館長	無料の展示スペースをなるべくオープンさせるための工夫でもあり、また常設展示室の代わりに収蔵品を展示する機会を増やす点でも重要な意味がある。広報や地下の展示との連携については今後も工夫をしていきたい。		
		運営 評議会			

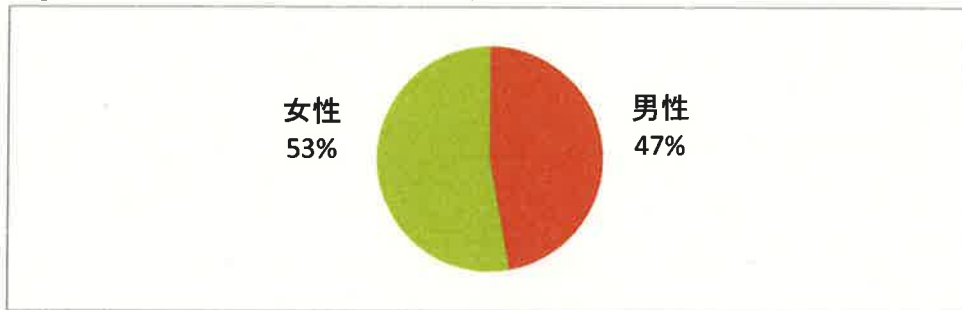
# 平成29年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	コレクション+ アートの秘密 私と出会う5つのアプローチ											
	会期	平成29年7月21日(金)～平成29年9月26日(火)						開館日数	59 日間				
	会場(ギャラリー)	アーツ前橋 地下ギャラリー						実施方式	01 自主企画・単独方式				
	観覧料	一般	500 円					出品点数	48 点				
		割引	300 円										
	担当者	学芸:辻瑞生 事務:佐藤恵司											
	目的・目標 (総括表)	鑑賞ツールの導入や対話による鑑賞ツアーを実施し、鑑賞のあり方を再度問い直すことで、美術愛好者の裾野を広げる。											
	キーワード	鑑賞体験											
	他団体との連携 (共催、協力等)	群馬大学(folks/フォークス)											
	参加作家	島地保武	山城大督	展示作家:19名									
関連イベント	2017/9/18-9/24 おしゃべりアートウィーク 1日2回 2017/8/26, 8/27 島地保武 パフォーマンス 2017/8/11 ワークショップつきギャラリーツアー 六感ラボ 2017/8/5, 8/27 ミュージアムの秘密 館内バックヤードツアー 2017/8/19 こどもアート探検												
①インプット(投入)・・・用いた資源 ②プロセス(活動)・・・戦略や手段の計画 ③アウトプット(結果)・・・実施内容、実績 ④アウトカム(成果)・・・どのような反応が得られたか ⑤インパクト・・・波及効果													
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(A2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録						
		1,500 部	63,000 部	0 部	4,000 部	0 部	0 部						
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率	入館者一人当たりコスト	観覧券売上収入(Aの一部)							
		別表から転載	別表から転載	(A)/(B)		一般	割引	合計					
		予算	450,000 円	7,395,000 円	6.1%	2,903 円	-	-	450,000 円				
		決算	354,800 円	5,945,048 円	6.0%	2,334 円	264,500 円	90,300 円	354,800 円				
		差額	-95,200 円	-1,449,952 円	6.6%	-569 円	-	-	-95,200 円				
予算/決算	78.8%	80.4%	98.1%	80.4%	-	-	78.8%						
会期一日あたり(決算)	6,014 円	100,764 円	-	-	4,483 円	1,531 円	6,014 円						
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	所蔵品に県内からの借用を加えて、作品鑑賞を楽しむ方法を紹介。展示作品数を絞り、ひとつひとつの作品とじっくり向き合うプログラムを実施										
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	①鑑賞ウォーミングアップツールの設置 ②対話による作品鑑賞ツアーの実施や、展覧会体験を振り返るさまざまな工夫 ③ダンスの美術作品の展示										
	・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	①鑑賞ウォーミングアップツールが各紙で大きく取り上げられた 上毛新聞H29.7.28、9.5、読売新聞H29.7.30 毎日新聞H29.9.7 ②鑑賞体験を広げる活動を評価してもらい、美術館の楽しみ方を伝える記事が取り上げられた。上毛新聞H29.9.17										
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試みの実績	②対話による作品鑑賞ツアーには、のべ89名が参加した。しかし参加したのは県内で対話による鑑賞を行っている人であったり、ボランティアをしている人など、もともと作品鑑賞に興味のある人であったようだ。アンケートでも概ね満足したと回答しており、他の人が感じたことを聞く経験を面白いと感じる人が参加していた。研修を受けたアーツナビゲーターも継続を希望しており、今後、展覧会ごとに実施できるように進めていく予定である。										
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
		646	79	97	12	358	656	494	69	136		2,547	43
	有料観覧者率	52.1%	25%	3%	4%	0%	14%	26%	19%	3%	5%	0%	
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項							
		入場・参加者数	4,000 人	2,547 人	63.7 %								
	展覧会満足度	80 %	86.8 %	6.8 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合								

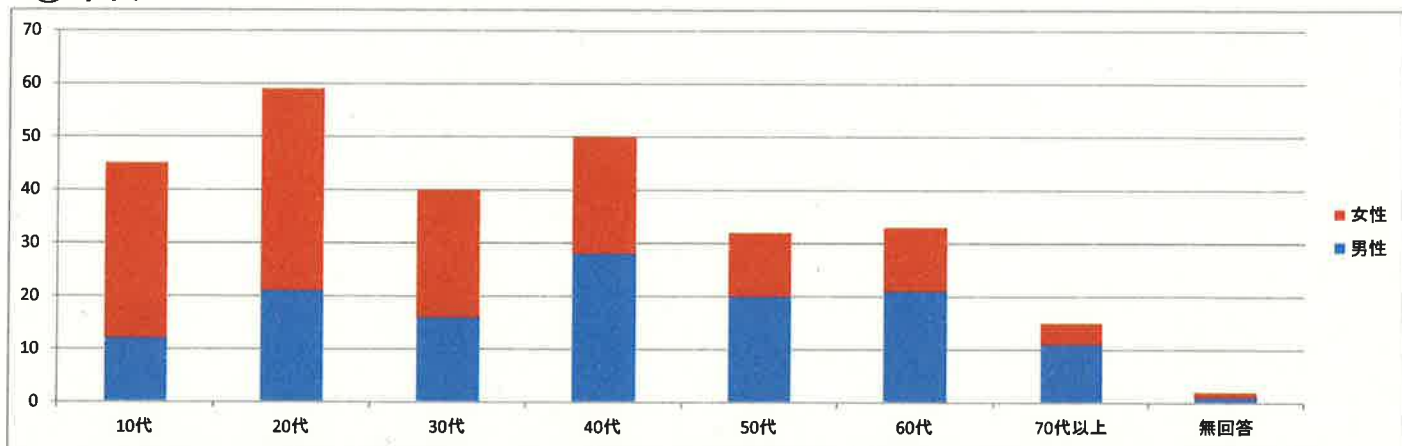
## 平成29年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	<b>事業名</b>	コレクション+ アートの秘密 私と出会う5つのアプローチ				
③ 結果	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:デザイナー選定、作家選定が遅れ、その後の印刷物作製と広報に影響した) 閉館後まで積み残しした。				
④ 成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	ターゲット:市民、美術愛好者、親子連れ			
		成果	夏休みということもあり、親子連れや宿題のための小中学生を取り込もうとしたが、効果的なPRができなかった。「コレクション」という言葉から、いつでも見られる収蔵品の展示と捉えられて、美術愛好者に効果がなかった。ポスターやチラシのデザインとターゲット層がミスマッチで、作品をトリミングするような紹介は、展覧会の内容が伝わりにくかったようだ。			
		ねらい1(転記)	鑑賞体験の広がり			
		成果	「集中して見られる配慮がされている」「一つ一つをじっくり鑑賞できた」などのコメントから、もともと鑑賞に興味がある人々には、鑑賞ウォーミングアップツールfolksや展覧会構成の章立てなどを楽しんでもらうことができた。対話による作品鑑賞ツアーの実施や、冊子を作成したことで、作品を自分の目でよくみることを意識してもらうことができた。			
		ねらい2(転記)	美術館を身近に感じてもらう			
		成果	ダンサーの島地保武が考えた映像空間や、ウォーミングアップツールは子どもから大人まで幅広い世代に楽しまれていたようだ。作品を見るというだけでなく、体験型の作品がアートを身近に感じさせるのに効果的であると再認識した。しかし、夏休み期間中であるにも関わらず、小中高生の来場は少なく、今後は夏休みの課題として来館するきっかけ作りを考えていきたい。			
		ねらい3(転記)	多様な視点や感覚の獲得			
		成果	美術館の中で一番長く滞在した場所にシールを貼ってもらうワークショップや、作品の感想を言葉で伝えてもらうコーナーでは、たくさんの方に参加してもらうことができた。自分以外の人の感想を長い時間をかけて読んでいる人もいて、自分以外のひとの視点や感覚を知る機会をつくることができた。			
⑤ 波及効果	個別評価  ※記入日を()内に入れてください  ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒アーツナビゲーター研修は本展覧会での実施を目標にしてきたが、18名の応募中12名が継続を希望し、次回以降の展覧会でも「おしゃべりアートウィーク」を実施できるように、自主的な勉強会やSNSなどでの告知を始めようとする動きがでてきた。 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒収蔵作品を中心とした展覧会であったので、繰り返し作品をみてもらうことで、作や収蔵作家に愛着を持つきっかけ作りができた。県内の美術館から作品を借用することで、関係作りを構築できた。  1. 参加作家のその後の活動を評価⇒ 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒ 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒ 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒				
自己評価 (担当者)		効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
		合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
		事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
		社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	・1階展示室の開室期間を少しでも長くするために、「コレクション展」を本展(コレクション+)よりも1カ月前からはじめたことや、参加作家のスケジュールの都合により、一部展示を早めて行ったことなどから、短期間に業務が分散してしまった。展覧会の担当が別々であることが望ましいが、同一担当の場合でも展覧会規模が違っても、印刷物制作や展示作業などは同じような事務作業があるので、スケジュールを調整することで、二展覧会の実施を効率よく行う。 ・印刷物等のデザイナーが、当館のほかのデザイン業務を請け負っていたため、校正時期が重なり、館内配布冊子の発行が初日に間に合うことができなかった。進行管理を行うとともに、デザイナー探しもしていきたい。 ・美術館を身近に感じてもらうためにも、美術愛好者を育てていくためにも、鑑賞のあり方を検討していくことは意義があると感じているが、本展覧会のようにテーマを「鑑賞体験」とするのではなく、テーマは別に設定しつつ、展示構成の切り口であったり、関連イベントなどで充実させていくほうが、伝わりやすいと感じた。				
	引継ぎ事項 (特記事項)	・前回の評議会でも意見があったが「コレクション展」という名前を使わないで、収蔵作品や展覧会の魅力を伝えるような工夫が必要である。 ・ポスター、チラシのデザインとターゲット層をよく考える。				
	コメント・意見	館長 副館長	継続してきたナビゲーター育成の成果を感じられる機会になった。鑑賞者を育てる仕事は時間がかかるがそのための工夫をいろいろ試みられたと思う。またfolksも関心が多く手ごたえを感じたが、一般の人が気軽に手にとってもらうには引き続き改良が必要。広報の仕方に課題が残った点は今後活かしていく必要がある。			運営 評議会

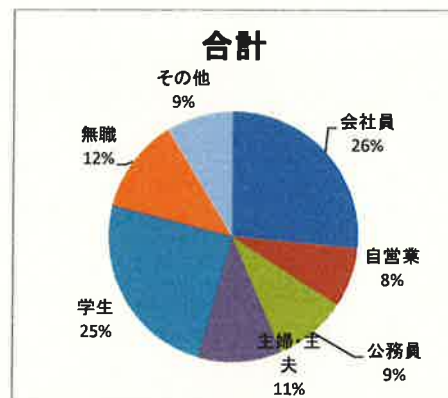
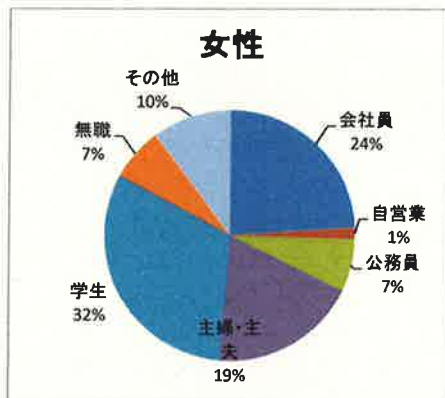
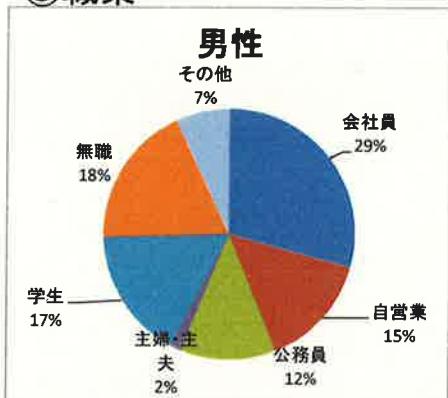
① アンケート回答数(276人)



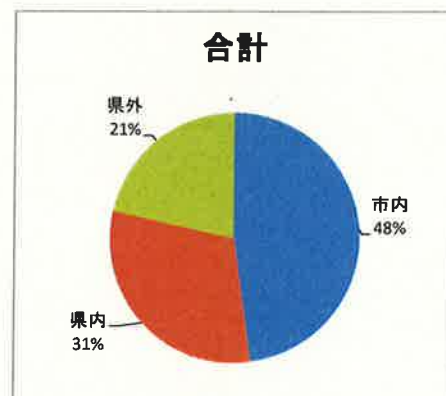
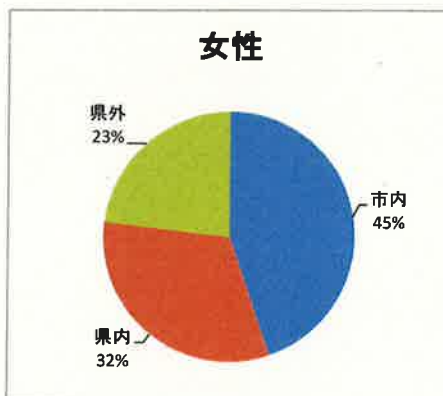
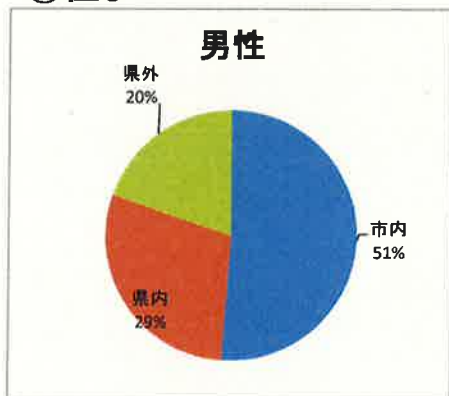
② 年代



③ 職業

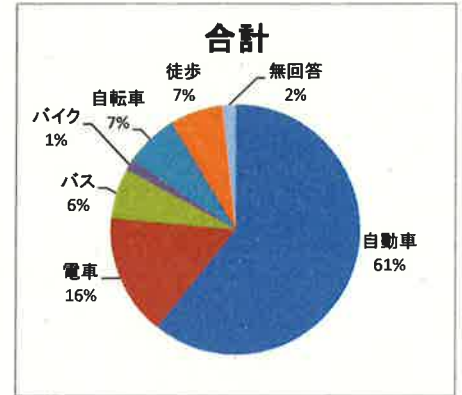
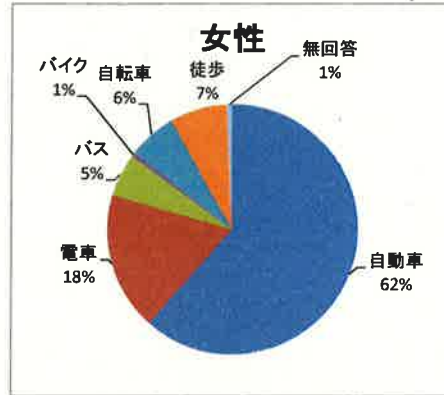
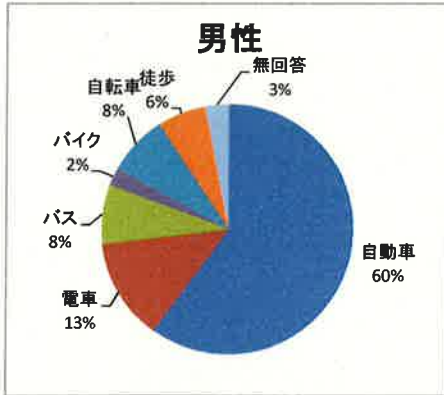


④ 住まい

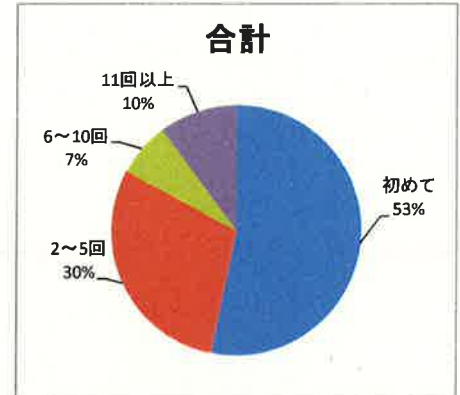
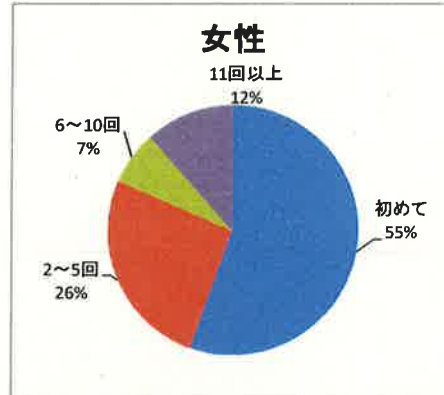




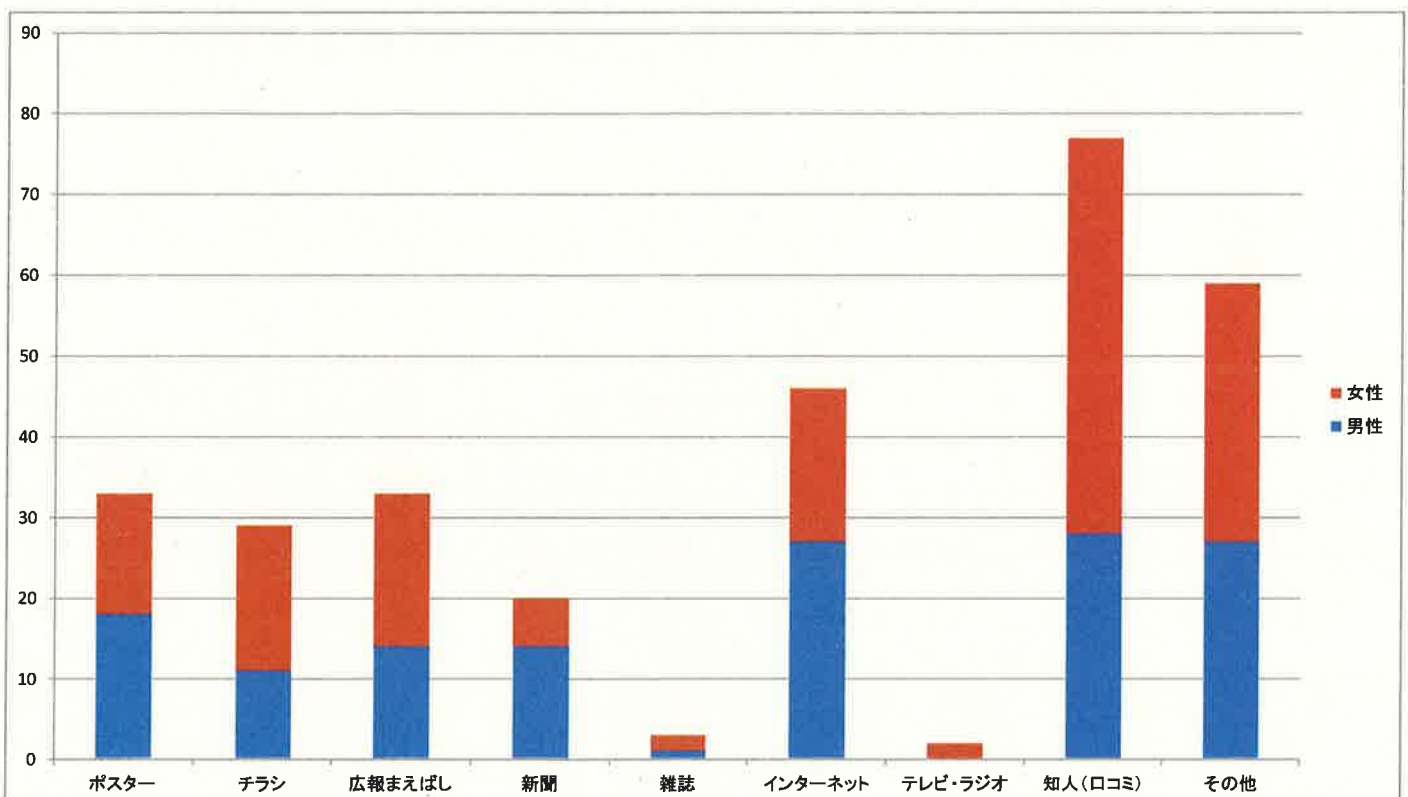
⑤交通手段



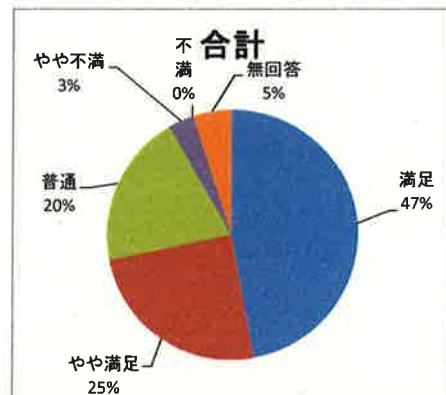
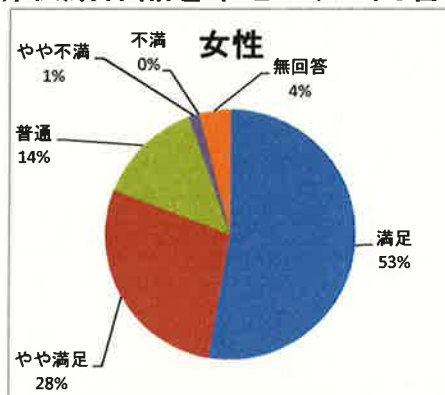
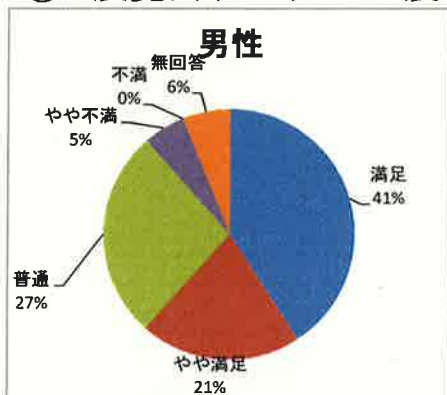
⑥来館回数



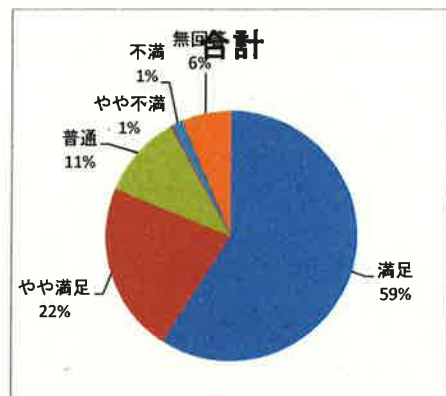
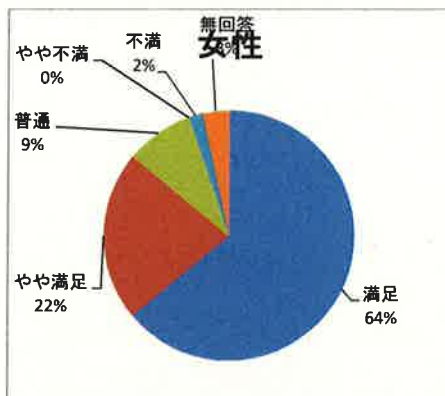
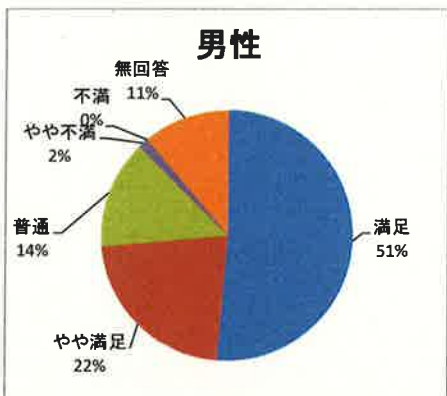
⑦企画展等を知った方法(※複数回答あり)



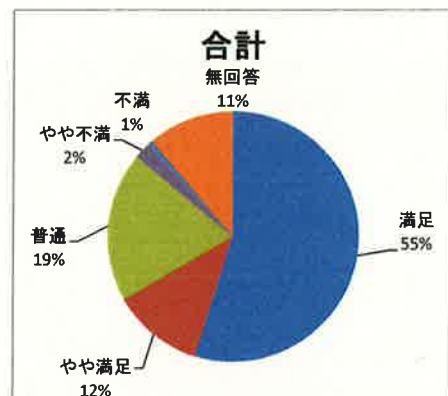
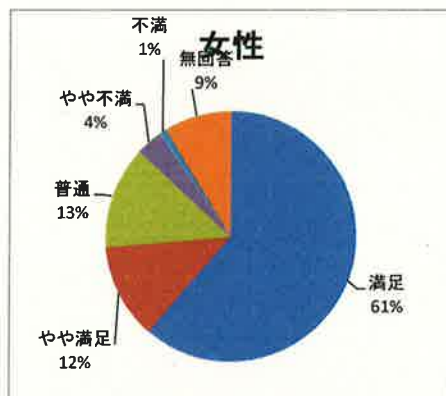
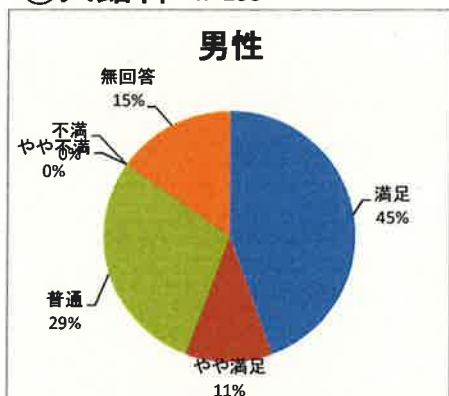
⑧-1 展覧会(コレクション展 新収蔵作品を中心に)の内容



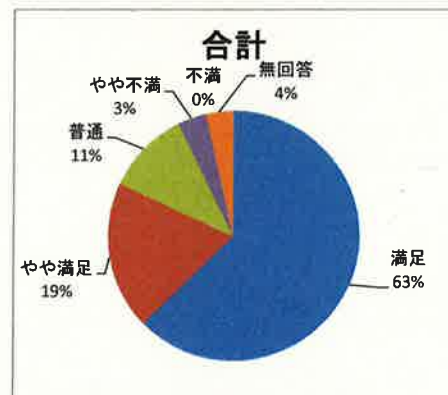
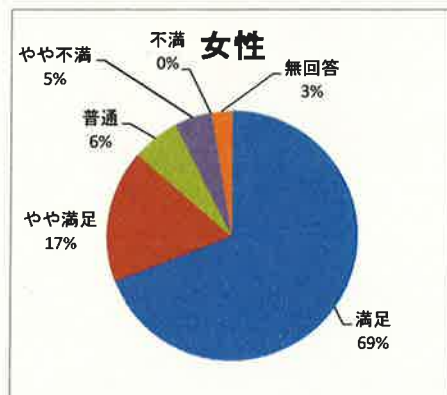
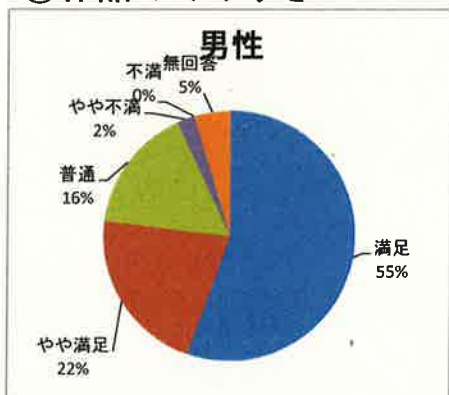
⑧-2 展覧会(コレクション+ アートの秘密)の内容 n=186



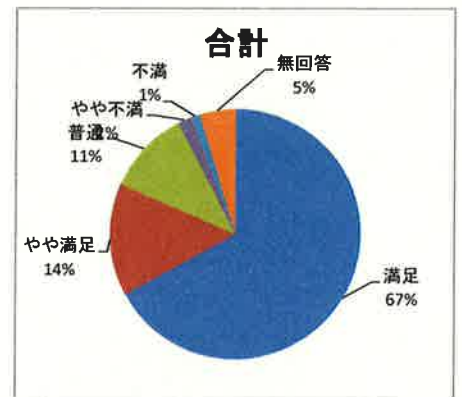
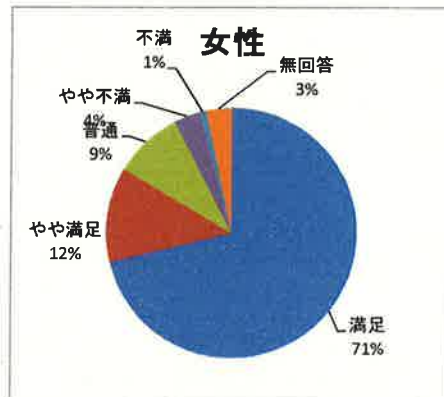
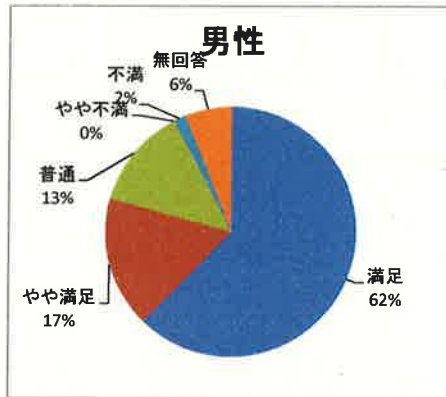
⑨ 入館料 n=186



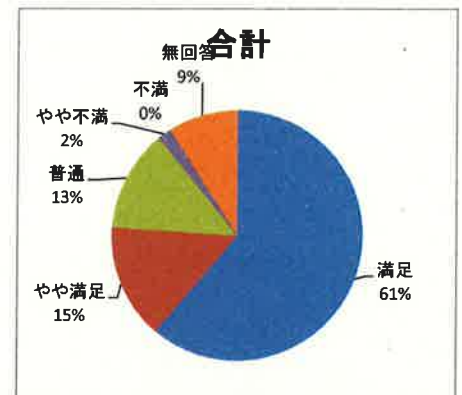
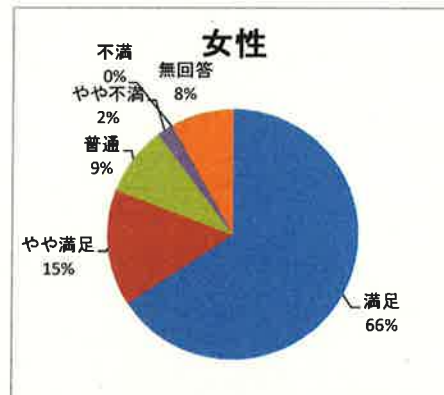
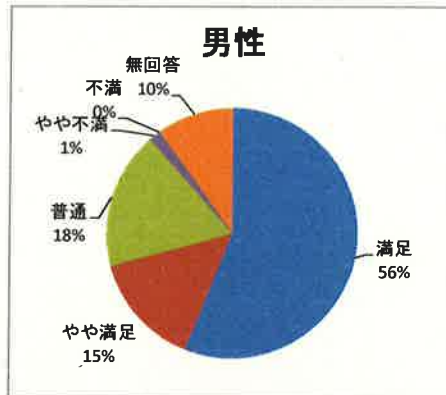
⑩ 作品のみやすさ



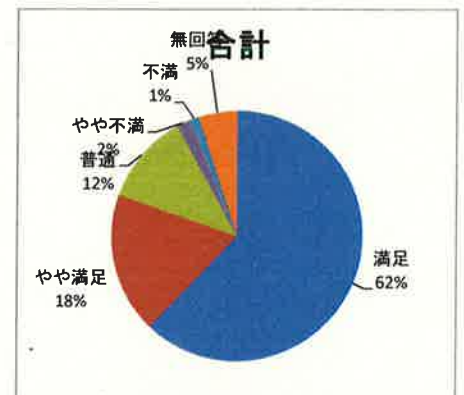
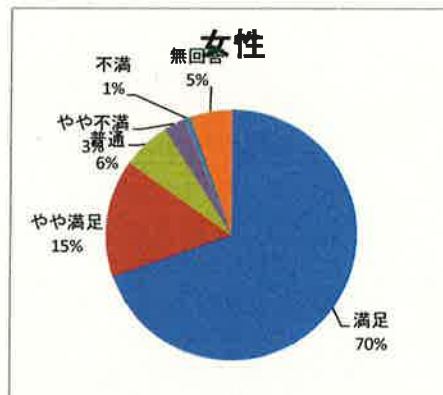
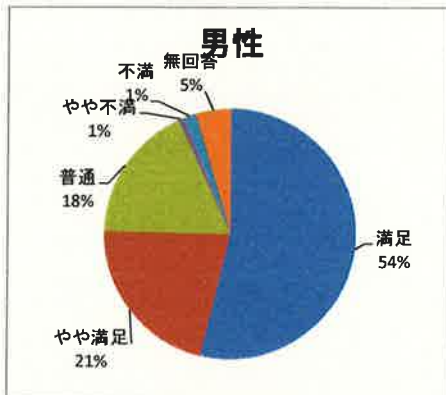
⑪ スタッフの対応



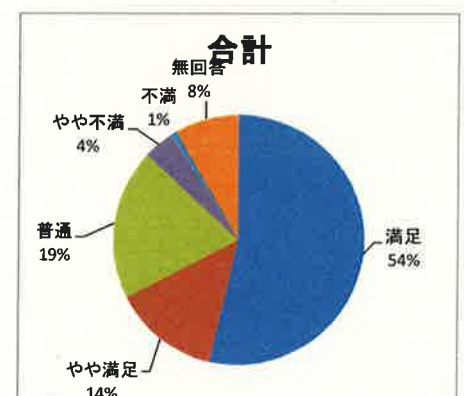
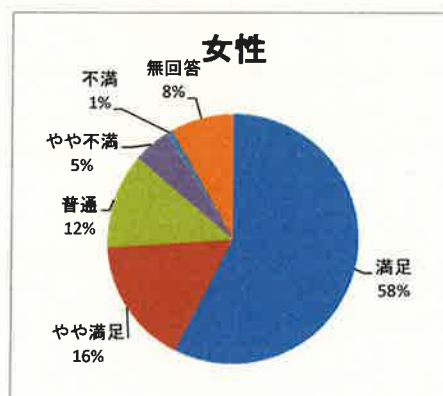
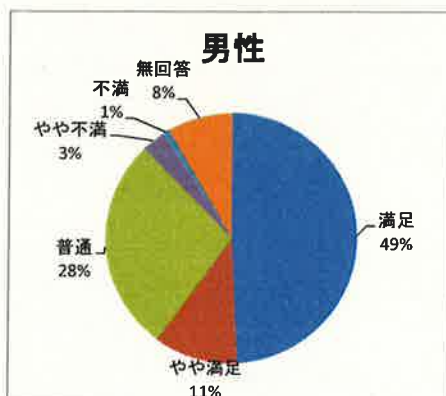
⑫ 施設の利用のしやすさ



⑬ アーツ前橋全体の印象

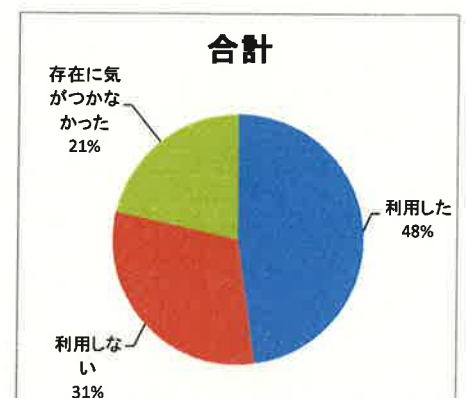
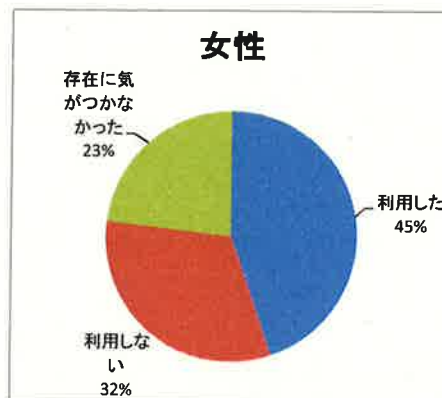
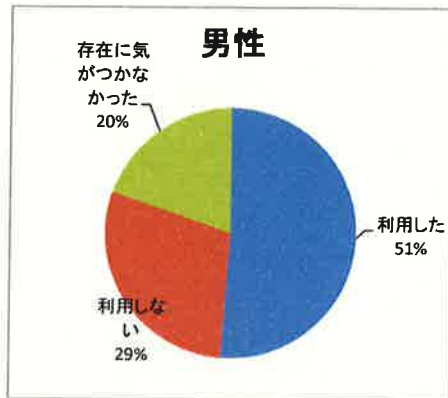


⑭ アーツ前橋までの道順のわかりやすさ





## ⑮folksの体験



- 今までなんとなく入りづらかったですが、いざ、一歩足を踏み入ると全く抵抗なく見ることが出来ました。こんなにいい場所があるならもっと早く気付いて入っておくんだっ、と思いました。ミュージアムショップも良かったです。(男性・20代)
- もぎりのチケットカウンターが下にありますが、ポツンとしていて不自然、ここがチケットカウンター？という感じ。そこに気をとられたら階段から落ちそうになりました。(女性・50代)
- 無料でとりあえず入りやすかったです。市のアーツセンターですから、極力無料が望ましいと思います。銀座の画廊めぐりをした昔、もちろん無料(女性・60代)
- 以前の企画で印象に残った作品がまた鑑賞できてよかったです。(男性・30代)
- 地階の作品がとても楽しく、歩くこと、見ることをそれぞれ普段とは異なる身振りで出来たのが良かったです。(女性)
- 誘導されているようで(導かれている)自由にみることができたのがとても良かった。コレクションとプラスαの組合せも興味深かった。(女性・40代)

## 「コレクション、コレクション+展」

2017.06.15(7.21) - 2017.09.26

- 地元作家の作品が見られてよかった。(男性・60代)
- 新しく知った画家さんばかりで、他の作品にもまた機会があれば見てみたいと思いました。(女性・40代)
- 田中恒先生は中学校の時の美術の先生でした。ただの絵だけでなく、モビールを作ったり、トーテムポールを彫ったり、詩に絵を付けたり、ものすごく充実して楽しい授業で、忘れられません。画家としての作品を見るのは初めてで、群馬の風土の根ざした自由かつ緻密な作品に先生の内面をちょっと見せて頂いたように思いました。(女性・60代)
- 久保繁造先生「白いうた」素晴らしい画家ばかりで、見ごたえがあった。前橋市民の美術館として是非継続して欲しい。前橋ゆかりの画家たちの常設展示を常設展示スペース、部屋を設けてほしい。(年間を通して)もっと来場者が増えると思う。(男性・70代)
- folksは作品を鑑賞する際の試金石としてとても良いと思う
- スタッフの方の対応が親切でとても感じがよかったです。いつも楽しい(おもしろい興味深い等)企画で近くにこんな美術館があることをうれしく思います。Folksはとてもよかったです。無の気持ちにリセットして作品を見ることができました。いやされました。今回だけでなくいつもあるといいなあと思います。(女性・50代)

## 平成 29 年度 アーティスト・イン・スクール（住中浩史×第六中学校）報告

アーティストを学校へ派遣して授業やワークショップ等を行う事業。今年度の1校目として、アーティストの住中浩史が第六中学校の余裕教室に20日間滞在。「アーツ六中プロジェクト」として、学校でしてみたいことや流行っていることといった生徒や先生の声も反映しながら、「誰かが何かをしたくなるアイテムや空間」を美術部の生徒たちと話し合い、天板が黒板のテーブル、キャンバス地の屏風、生徒が自主的に表現できる空間「カオスギャラリー」など、合計10アイテムを制作。アイテムは、滞在最終日の学習発表会で全校生徒や保護者へお披露目を行い、今後学校で活用されていく。アーティストのサポート、プロジェクトの記録を、群馬大学で美術教育を学ぶ学生たちが担当した。



- 主催：アーツ前橋
- 事業コーディネート：NPO 法人まえばしプロジェクト
- 講師：住中浩史（アーティスト）
- 対象：前橋市立第六中学校 美術部（1-2年生）8人ほか
- 滞在期間：2017年10月12日（木）～31日（火）

### □振り返りの会



滞在終了後の11月3日に、事業コーディネート団体より茂木群馬大学教授のファシリテートのもと、アーティスト、学生、担当教員、サポート学生らとプロジェクトを振り返り、交流会を行った。プロジェクトの始まりから終わりまでの時系列の中で、戸惑いや達成感などそれぞれの学びを共有することができた。事業終了後も、アーティストが前橋を訪れた際に、学校にも立ち寄るなど、アイテムのその後や活用の状況について共有を行なっている。

### □報告展示とシンポジウム

本事業のほか計3つの中学校美術教育の実践を紹介する「中学校美術教育の新しい挑戦展・内と外をつなげる3つの実践からみえるもの」展にて、完成したアイテムに展示や活動の紹介を行った。シンポジウムでは、アーティストのような外部人材が入ったことで、学校側の受け入れの難しさなどの課題について話し合った。

会期：2017年11月19日（火）～2月3日（日）

会場：広瀬川美術館（群馬県前橋市千代田町3-3-10）

主催：まえばしインクルーシブ美術教育研究会

協力：広瀬川美術館・NPO 法人まえばしプロジェクト・群馬大学教育学部美術教育講座

シンポジウム：「中学校美術教育の挑戦：外と内からの提言」11月25日（日）14:00～16:00



## 平成 29 年度 出張あーつひろば in 前橋市児童文化センター 報告

今年度初の取り組みとして、親子連れが多く訪れる前橋市児童文化センターへ出張し、ことばをテーマにしたヒツクリコ展に連動してオリジナルの模様の紙や製本を体験するプログラムを全 3 回実施した。1 つのテーマで施設利用者の年齢や場所に応じてプログラムを変え、制作した成果物は、12 月はアーツ前橋、1 月は児童文化センターで展示を行う。親子連れの利用の多い児童文化センターの利用者へアーツ前橋の周知を図るとともに、アートを通じた参加者の交流、市内施設との連携の可能性を探る。

□主催：前橋まちなか文化祭実行委員会・アーツ前橋

□共催：前橋市児童文化センター（11/18、23 実施分）

□助成：文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

□講師：三上愛（染色造形作家）

□広報：チラシ A4 版 1,000 部（11/26 実施分）

児童文化センター広報紙「わくわくキッズ」（11/18、23 実施分。市内小中学校全校生徒配布）

### ①いろいろな紙を作ろう！



日時：11 月 18 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分

場所：前橋市児童文化センター2F はっけんラボ

対象：どなたでも（未就学児は保護者同伴）15 名

参加者数：21 人

内容：本にするための紙を制作。スタンプやローラー、ビー玉、紙版画、穴あけの 4 つのブースに分かれて、色とりどりの様々な模様の紙が出来上がった。お気に入りの紙は活用方法を紹介して各々持ち帰りとし、他の参加者が制作した紙の中で他の人へプレゼントしていいコーナーから気に入り制作者に声をかけて持って帰る子や、鑑賞の時間で他の人が作った紙の良いところを紹介する子もいるなど、低年齢の参加が多い回だったが参加者同士の交流がもてる時間となった。

### ②マイブック／はじめての本作り



日時：11 月 23 日（木・祝）13 時 30 分～15 時 30 分

場所：前橋市児童文化センター2F はっけんラボ

対象：小 1～中 3（4 年生以下は保護者と参加）

参加者数：38 人

内容：一折中綴じ製本を体験しながらオリジナルの本を制作した。18 日に制作した紙も素材にしながら、紙の組み合わせを考えて製本した。本の形になった後は、模様をもとに更に描きこんだり、タイトルを考えたり、

端紙でしおりを作ったりして、親子で会話しながら個性豊かな本が誕生した。

### ③かみ・いろ・えがく×本を作る



日時：11 月 26 日（日）14 時～16 時

場所：アーツ前橋 スタジオ

対象：小学生以上の方（4 年生以下は保護者と参加）

参加者数：27 人

内容：前回同様紙の組み合わせを考えて製本するか、ツリーや雪だるまなど季節にあった本を作るか選んでもらい、制作を行った。クリスマスを感じさせる本が多数完成した。



## 前橋めぶくフェス アート部門

2014年より毎年開催してきた「前橋まちなか文化祭（通称：まちフェス）」は、文化芸術活動を行う団体を対象とした公募型の文化祭として、これまでに延べ50団体という大変多くの団体が参加しています。今年度より、対外的な発信力や更なるクオリティの向上を目的とし、新たに「前橋めぶくフェス」の「アート部門」という位置づけで実施しました。

今年度は、3日間で20団体による多様なジャンルの企画が実施されました。

### ○実施概要と比較

	まちフェス 2014	まちフェス 2015	まちフェス 2016	めぶくフェス アート部門
期間	10/25(土)～ 26(日)	10/24(土)～ 25(日)	10/28(金)～ 30(日)	11/3(金)～ 5(日)
参加団体数	9団体	20団体	21団体	20団体
企画数	18企画	34企画	43企画	34企画
会場数	9か所	27か所	22か所	24か所
総来場者数	2,000人	3,820人	7,677人	2,865人

### ○広報物

アート部門：リーフレット 8,000部（A3二つ折）

### めぶくフェスアート部門の様子



（左）商店街アーケード下を会場としたパフォーマンス／（右）地元アーティストの展示





(左) 大人も子供も参加できるワークショップ／(右) 学生らが多く参加した神出鬼没なパフォーマンス

## めぶくフェス (全体)

### ○実施概要

期間：2017年11月3日～5日

会場：中央イベント広場および中央通商店街アーケード、など

主催：前橋めぶくフェス実行委員会

共催：前橋中央通り商店街振興組合、前橋市、(一財)前橋市まちづくり公社

後援：前橋商工会議所、上毛新聞社、FM GUNMA、まえばしCITY エフエム

協賛：50社

出店：フード(飲食)：15、フード(食加工)28、クラフト：22、商店街：6、アート：20

コンセプト：前橋の大地における「芽吹き祭典」。未来の大樹を隠し持つ、今はまだ幼い芽を発掘、紹介し、みんなで応援するためのお祭り

目的：地域資源や、地域の人材のポテンシャルを最大限活かすことで、中心市街地の集客力を向上させ、継続的なにぎわいを創出する

印刷物：チラシ2,000部(A4)、ポスター10部(A1、B2)、パンフレット5,000部(B4)

参加者数：34,562人(3日間延べ人数)

## 第6回 駅家（うまや）ノ木馬祭

アーティストの白川昌生が、国定忠治や萩原朔太郎のような歴史上の人物や実際に起きた出来事をモチーフにして、前橋の歴史を紡ぐ物語「駅家の木馬」を創作。この物語をもとにしながら、子どもたちとのワークショップを通じて完成させた木馬を様々なリズムや音楽とともに街の中を練り歩く「駅家ノ木馬祭」を2011年から実施。今回で6回目となり、毎年少しずつかたちを変えながら実施している。今年度は、春の木馬祭を実施したほか、松原東洋率いる舞踏団「トンデ空静」や市内を中心に活動する和太鼓グループとのコラボレーションや新しい振り付けの練習会などが行われた。

### ○実施概要

日 時：春の木馬祭 4月29日（土） 11:00～  
木馬祭練習会 11月 2日（木） 19:00～  
駅家ノ木馬祭 11月 5日（日） 1回目 11:00～ / 2回目 13:00～

会 場：弁天通り商店街、前橋中心商店街など ※集合場所は大蓮寺

主 催：駅家（うまや）ノ木馬祭実行委員会 共催：前橋市

実行委員：白川昌生、岡正己、福西敏宏、内山浩幸、岸篤美、蓮池俊光、奥田雄一郎、大日向基子、忠あゆみ

参加人数：延べ52人（練習会10人、祭当日42人）

